

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 B 13 14 15 17 18 19



遠  
2483  
14

新刻稗史合卷五冊

文政辛巳孟春發市



晋米齋編  
五渡亭圖

版原 春案軒

本材木町一丁目



勸善懲惡の微意と一戲場は縁り人世多端の形勢と狂言の條に據  
然も性賢れ善不善を役者の借身は松し。以て若婦幼童其教諭り  
備ふ忠不佞情が實は皇太子尾上乃松の操と添へ義ハ初初を皇太子  
伶派遠るに眼目樹が目瞬さるれ勇気加ふ色ハ健く助が急は復取て  
操縦が貞と頭。契情道意が死して道と多るに涙の裏で涙く難然  
桃井が深く契り。早枝が若葉の蔓ハ断とも意路の跡と止めは縁  
遙るに影復替れ善の羽との。一行方と志は。灰多々。蛇の如く  
虚を吐く。蛇が先をうて蚊も知れ。吟吟狂言侍格善の遠るを暫  
ふ。忠。剛き。若葉の蔓。大杉は赤身。若之と以て。鹽に遠ること  
必身取懼あこと勿きと人云。

文政四年辛巳春 晋米齋玉粒戲叙



於藍亭之窗下







あつたのさあめつた  
 なまのまのまのまのま  
 まのまのまのまのま  
 まのまのまのまのま

のすまのまのまのまのま  
 まのまのまのまのま  
 まのまのまのまのま  
 まのまのまのまのま



二段目 物沢村  
 出立の場

あつたのさあめつた  
 なまのまのまのまのま  
 まのまのまのまのま  
 まのまのまのまのま

あつたのさあめつた  
 なまのまのまのまのま  
 まのまのまのまのま  
 まのまのまのまのま





仁本 正監  
 賢 織崎 少善  
 酒 瀧 呈  
 和 田 左衛門  
 國

とのりゆると  
 うきとくける  
 君をたて人  
 かくくも  
 とくせ和蘭  
 國のきこれ  
 小坂とさ  
 ありたおい  
 かくたれい  
 何れは後入  
 笑人とあま  
 かくはうとさ  
 わげく用いん  
 のなとりの  
 仁本とさ  
 全酒の二を  
 海花ハのび



とのりゆると  
 うきとくける  
 君をたて人  
 かくくも  
 とくせ和蘭  
 國のきこれ  
 小坂とさ  
 ありたおい  
 かくたれい  
 何れは後入  
 笑人とあま  
 かくはうとさ  
 わげく用いん  
 のなとりの  
 仁本とさ  
 全酒の二を  
 海花ハのび

ついでたがひて  
 のりゆると  
 うきとくける  
 君をたて人  
 かくくも  
 とくせ和蘭  
 國のきこれ  
 小坂とさ  
 ありたおい  
 かくたれい  
 何れは後入  
 笑人とあま  
 かくはうとさ  
 わげく用いん  
 のなとりの  
 仁本とさ  
 全酒の二を  
 海花ハのび



ついでたがひて  
 のりゆると  
 うきとくける  
 君をたて人  
 かくくも  
 とくせ和蘭  
 國のきこれ  
 小坂とさ  
 ありたおい  
 かくたれい  
 何れは後入  
 笑人とあま  
 かくはうとさ  
 わげく用いん  
 のなとりの  
 仁本とさ  
 全酒の二を  
 海花ハのび





仁 又紙張る人  
 子のものさし  
 とつりつた  
 大枝をかく  
 こそんへんを  
 まつとちを  
 とむしつた  
 大枝をかく  
 こそんへんを  
 まつとちを  
 とむしつた



仁 又紙張る人  
 子のものさし  
 とつりつた  
 大枝をかく  
 こそんへんを  
 まつとちを  
 とむしつた

源 又紙張る人  
 子のものさし  
 とつりつた  
 大枝をかく  
 こそんへんを  
 まつとちを  
 とむしつた



源 又紙張る人  
 子のものさし  
 とつりつた  
 大枝をかく  
 こそんへんを  
 まつとちを  
 とむしつた

○大橋がきつ子にあき月のむねがごとく  
 又紙勝ハえんがれふゆゆのむねの  
 けりさあしよりゆゆのむねのむねの  
 大橋ハえんがれふゆゆのむねのむねの  
 不ヤゆ紙勝どのそれハゆゆのむねの  
 さうえおとろく世のむねのむねの  
 大橋がとろく世のむねのむねの  
 紙勝とむねのむねのむねの  
 大橋ハえんがれふゆゆのむねの  
 お目んえんがれふゆゆのむねの  
 だのむねのむねのむねの  
 だのむねのむねのむねの



○大橋がきつ子にあき月のむねがごとく  
 又紙勝ハえんがれふゆゆのむねの  
 けりさあしよりゆゆのむねのむねの  
 大橋ハえんがれふゆゆのむねのむねの  
 不ヤゆ紙勝どのそれハゆゆのむねの  
 さうえおとろく世のむねのむねの  
 大橋がとろく世のむねのむねの  
 紙勝とむねのむねのむねの  
 大橋ハえんがれふゆゆのむねの  
 お目んえんがれふゆゆのむねの  
 だのむねのむねのむねの  
 だのむねのむねのむねの

細ヤイ海花  
 うねのむねの  
 大橋ハえんがれふゆゆのむねの  
 けりさあしよりゆゆのむねのむねの  
 大橋ハえんがれふゆゆのむねのむねの  
 不ヤゆ紙勝どのそれハゆゆのむねの  
 さうえおとろく世のむねのむねの  
 大橋がとろく世のむねのむねの  
 紙勝とむねのむねのむねの  
 大橋ハえんがれふゆゆのむねの  
 お目んえんがれふゆゆのむねの  
 だのむねのむねのむねの  
 だのむねのむねのむねの



大橋ハえんがれふゆゆのむねの  
 けりさあしよりゆゆのむねのむねの  
 大橋ハえんがれふゆゆのむねのむねの  
 不ヤゆ紙勝どのそれハゆゆのむねの  
 さうえおとろく世のむねのむねの  
 大橋がとろく世のむねのむねの  
 紙勝とむねのむねのむねの  
 大橋ハえんがれふゆゆのむねの  
 お目んえんがれふゆゆのむねの  
 だのむねのむねのむねの  
 だのむねのむねのむねの



大橋ハえんがれふゆゆのむねの  
 けりさあしよりゆゆのむねのむねの  
 大橋ハえんがれふゆゆのむねのむねの  
 不ヤゆ紙勝どのそれハゆゆのむねの  
 さうえおとろく世のむねのむねの  
 大橋がとろく世のむねのむねの  
 紙勝とむねのむねのむねの  
 大橋ハえんがれふゆゆのむねの  
 お目んえんがれふゆゆのむねの  
 だのむねのむねのむねの  
 だのむねのむねのむねの





雨の降る中  
舟に揺れる  
女と子の  
姿

雨の降る中  
舟に揺れる  
女と子の  
姿



⊕  
 万葉集  
 卷之八  
 上之卷  
 三十一  
 大和歌



十三  
 万葉集  
 卷之八  
 上之卷  
 三十一  
 大和歌



万葉集  
 卷之八  
 上之卷  
 三十一  
 大和歌



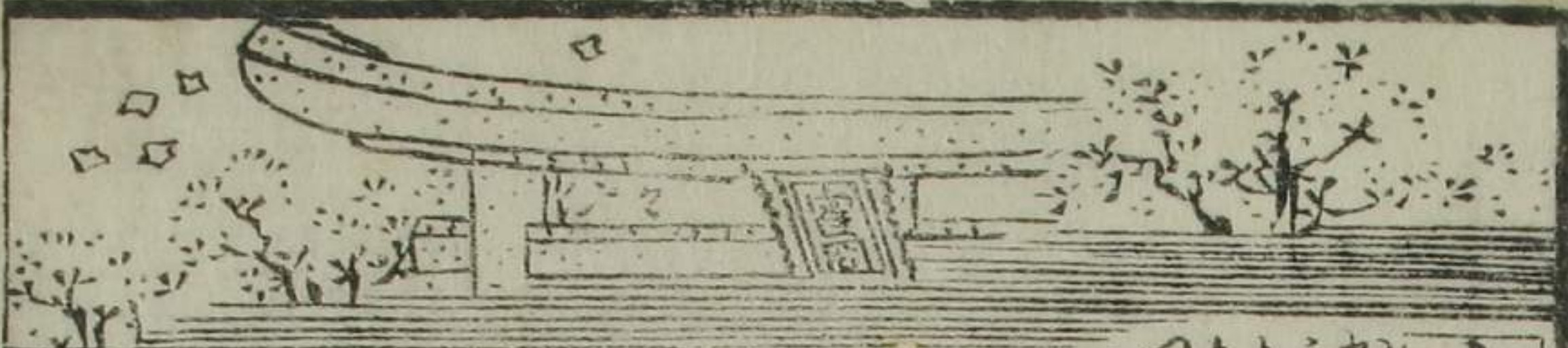




五月廿二日



十五



### 六段目 江戸の町

江戸の町は、昔から賑わいがあり、人々の生活の様子がよく見られる。ここでは、江戸の町を歩いている人々の様子を描いている。中には、荷物を背負って歩く人、傘をさして歩く人、そして、お茶屋で座す人など、様々な姿が見られる。江戸の町は、まさに生活の都であり、人々の営みの集まりである。この六段目では、江戸の町の様子を描き、人々の生活の姿を伝える。

江戸の町は、昔から賑わいがあり、人々の生活の様子がよく見られる。ここでは、江戸の町を歩いている人々の様子を描いている。中には、荷物を背負って歩く人、傘をさして歩く人、そして、お茶屋で座す人など、様々な姿が見られる。江戸の町は、まさに生活の都であり、人々の営みの集まりである。この六段目では、江戸の町の様子を描き、人々の生活の姿を伝える。



江戸の町は、昔から賑わいがあり、人々の生活の様子がよく見られる。ここでは、江戸の町を歩いている人々の様子を描いている。中には、荷物を背負って歩く人、傘をさして歩く人、そして、お茶屋で座す人など、様々な姿が見られる。江戸の町は、まさに生活の都であり、人々の営みの集まりである。この六段目では、江戸の町の様子を描き、人々の生活の姿を伝える。





外一誠  
終能長  
敬父  
如天

見ゆがひ  
がたうら  
あやうら  
いやく  
くく



あやうら  
いやく  
くく

あやうら  
いやく  
くく

上事於  
君下交  
於友内



あやうら  
いやく  
くく



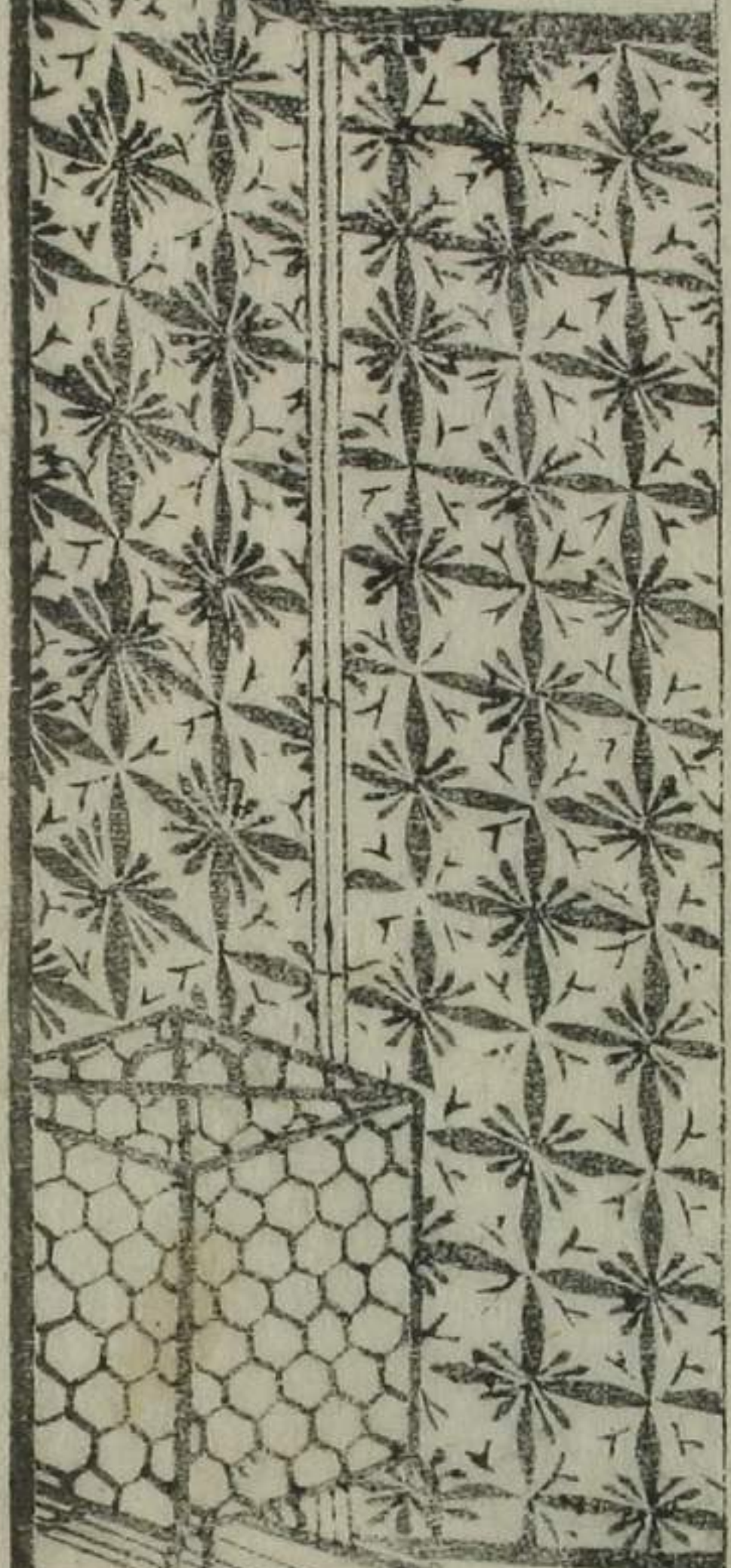
あやうら  
いやく  
くく

ふたつにやちきやう  
ありおるをよき  
ふたつにやちきやう  
ありおるをよき  
ふたつにやちきやう  
ありおるをよき



ふたつにやちきやう  
ありおるをよき  
ふたつにやちきやう  
ありおるをよき  
ふたつにやちきやう  
ありおるをよき

ふたつにやちきやう  
ありおるをよき  
ふたつにやちきやう  
ありおるをよき



ふたつにやちきやう  
ありおるをよき  
ふたつにやちきやう  
ありおるをよき

ふたつにやちきやう  
ありおるをよき  
ふたつにやちきやう  
ありおるをよき



ふたつにやちきやう  
ありおるをよき  
ふたつにやちきやう  
ありおるをよき



あきまき  
たぬく  
もゆらん  
あきまき  
たぬく  
もゆらん  
あきまき  
たぬく  
もゆらん

あきまき  
たぬく  
もゆらん  
あきまき  
たぬく  
もゆらん  
あきまき  
たぬく  
もゆらん



あきまき  
たぬく  
もゆらん  
あきまき  
たぬく  
もゆらん  
あきまき  
たぬく  
もゆらん

あきまき  
たぬく  
もゆらん  
あきまき  
たぬく  
もゆらん  
あきまき  
たぬく  
もゆらん



ゆきしんくわいしんくわい  
 かなるまきつらうあつらうまきつらう



かみりつらう  
 かなるまきつらうあつらうまきつらう  
 かなるまきつらうあつらうまきつらう  
 かなるまきつらうあつらうまきつらう

ゆきしんくわいしんくわい  
 かなるまきつらうあつらうまきつらう



ゆきしんくわいしんくわい  
 かなるまきつらうあつらうまきつらう  
 かなるまきつらうあつらうまきつらう  
 かなるまきつらうあつらうまきつらう



ふしぎなるく 海を渡るなをうしんをうしん  
あつめハ中こころえいさくをうしん  
ふしぎなるく 海を渡るなをうしん  
あつめハ中こころえいさくをうしん  
ふしぎなるく 海を渡るなをうしん  
あつめハ中こころえいさくをうしん



なつめ 追加増補  
十段目

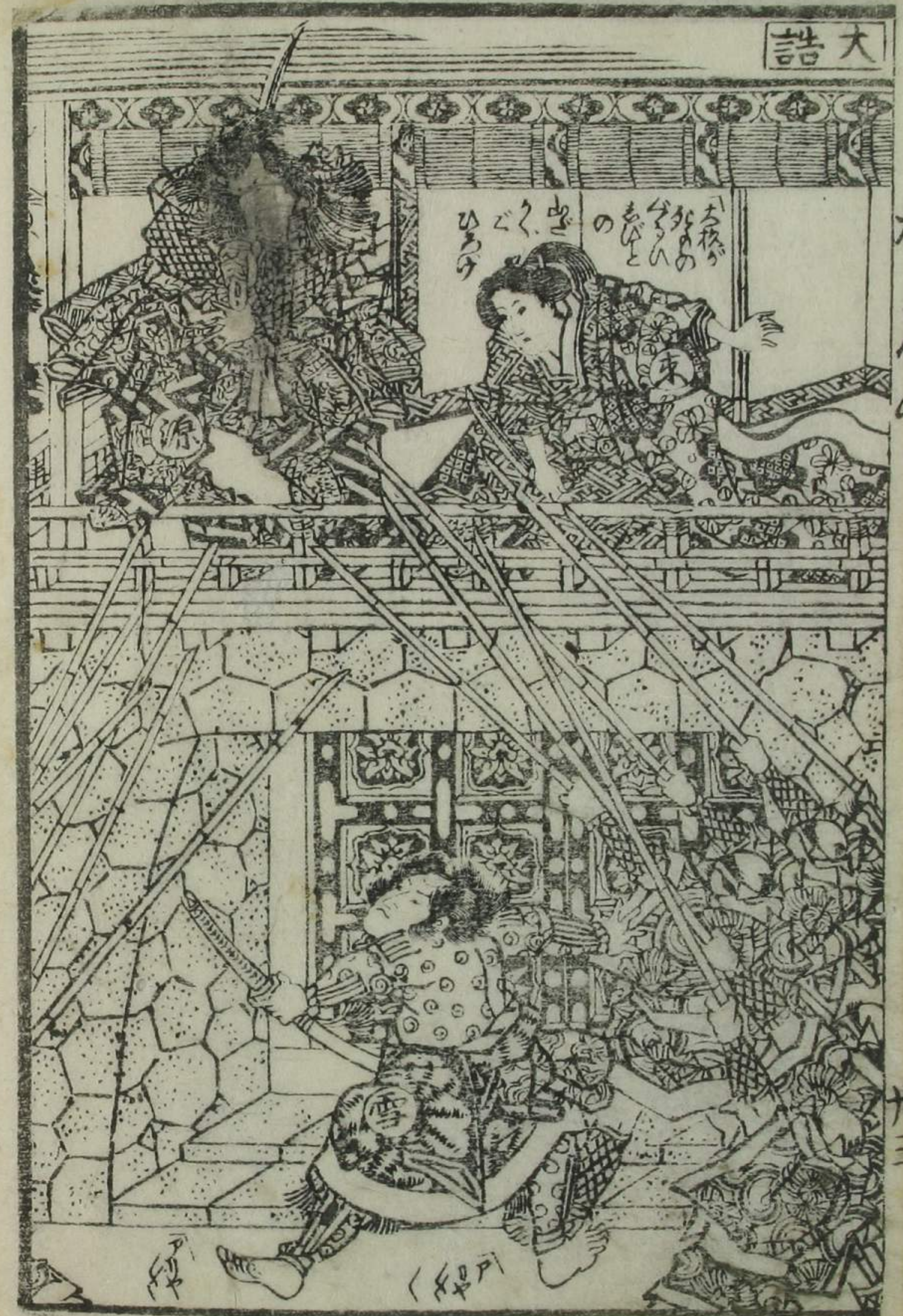
ふつとせんをうしんその時のか  
天どのいさくへんしぬ内も  
まきさやまやうしん内助の助  
さあさくさくさく 林とさく  
おのれらるがせろのめわい  
厚のつとさくくとせんご  
ちくはちやまうしん  
尾さそくゆきさるしん  
まか「ヲ」細かぬかやんを  
い「甘」菊ささくしん  
ちん「の」のやうしん  
うしん「の」のやうしん  
このゆきとせん  
のてい「尾」尾上とせん  
あがり「の」かきしん  
たか「の」かきしん  
ぬらびとせん  
る様なきのそま  
ん「の」かきしん  
い「の」かきしん  
の「の」かきしん  
か「の」かきしん  
あ「の」かきしん  
自「の」かきしん  
の「の」かきしん



なつめ 追加増補  
十段目



源氏の  
軍勢



大詰

大詰の  
おの  
の  
ひさし

源氏

大詰

十段遊考の文句

石の山に...の...の...  
 ...の...の...  
 ...の...の...  
 ...の...の...



...の...の...  
 ...の...の...

...の...の...  
 ...の...の...



...の...の...  
 ...の...の...

自十段後  
 追考補綴  
 晋米齋五粒編述



文政四年辛巳新刊版史目録

<p>長兵衛 権衛 狭客五妻鑑五冊 向榮樓欣堂作 一圓齋国丸画</p>	<p>尾上 梅幸茶婀娜漆色弁 三馬作 国貞画</p>	<p>三日月 江戶花三升格子弁 式亭作 国貞画</p>	<p>松會 讀本 引書語三升大夫弁 式亭作 国貞画</p>	<p>お仲 時行模様友善漆弁 式亭三馬作 哥川国貞画</p>
<p>地本義太夫問屋 西宮新六版 江戸本材木町一丁目 春松軒</p>	<p>金龜羅 花上野譽之石碑 利生記 国貞画</p>	<p>二代 尾上 鏡山旧錦繪五冊 忠義金傳 国貞画</p>	<p>東海道小夜白浪六冊 夷福亭宮守作 哥川国貞画</p>	<p>月小夜 曾我模様風流姿六冊 鬼美堂三郎 古今亭三鳥作 哥川美丸画</p>



